

## トラフグのふ化仔魚放流を実施

近年、トラフグの資源量は減少が著しく、平成 17 年に 129 万尾であったものが 26 年には 57 万尾にまで減少しており、その減少に歯止めがかからない状況となっている。

このような状況を受けて、県中部の漁業者が中心となってトラフグふ化仔魚放流による資源回復の取り組みが始まった。

採卵は、漁獲された雌雄 13 尾の親を用い、4 月 21 日と 25 日に実施した(写真 1、2)。成熟の進んだメスから卵を絞り、同時にオスの精子を卵にかけることで計 420 万粒の受精卵を得ることができた。これを水産研究所に持ち帰り、ふ化まで 500L 水槽 8 槽で管理した(写真 3)。

採卵後 10 日目頃から徐々にふ化が始まり、12 日目に無事放流することができた(写真 4)。放流は倉敷市や漁業者と一緒にいき、5 月 2 日と 6 日の 2 日間で合計 172 万尾のふ化仔魚を下津井沖に放流した(写真 5)。

トラフグは 6 月頃には全長 1cm 程に育ち本県沿岸に接岸し、さらに秋頃には 15~20cm にまで成長する。その後、徐々に本県沿岸を離れ、多くは日本海や東シナ海に回遊するものと考えられる。親に成長し岡山の海に戻って来るのは 2、3 年後のことだ。

今後は採卵や卵管理の技術を普及し、漁業者自身の手でふ化仔魚放流ができるまでにしていきたい。取り組みを続けることで、少しでもトラフグ資源の回復につながることを期待する。(資源増殖室：竹本)



写真 1 水揚げされたトラフグ



写真 2 採卵の様子



写真 3 卵管理



写真 4 トラフグのふ化仔魚(全長約3mm)



写真 5 ふ化仔魚放流の様子